

戦国ソーサリアン

— ゲームを始める前に —

- これまでのソーサリアンでは、レベル1からレベル5まで、5本あるシナリオのうち、どれからでも始めることができました。しかし、『戦国ソーサリアン』は、ちょっと違います。
『戦国ソーサリアン』では、シナリオを1から順番に解いていくように、また順番に解いていかなければならないように、構成されているのです。
- また、1から5のシナリオに参加するパーティーは、必ず同じメンバーでなくてはなりません。たとえばA、B、Cの3人でシナリオ1・武田信玄の章を始めたとしたら、最後までそのパーティーでプレイする、ということです。
- ※ 『戦国ソーサリアン』の5本のシナリオのなかには、パーティーのなかにウィザードがないと解けないものがあります。ですから必ず、最低でもひとりにはウィザードを含んだパーティーを編制してください。
- なお、『戦国ソーサリアン』では、各シナリオとも最後の敵(ボスキャラですね)を倒すことを目的としています。そこで、各シナリオに登場する敵キャラクターの強さ(ストレングスやヒットポイントなど)は、これまでのシナリオのレベル5と同じくらいに設定されています。ですから、無理をせず、十分な強さを持ったキャラクターで冒険に臨んでください(もつとも、これまで幾多の難関を乗り越えてきた勇者のみなさんには、これはよけいな忠告かもしれません)。
- ひとつのシナリオをクリアしたら、必ずセーブするようにしてください。シナリオを解いた後、セーブせずにシナリオをプレイし始めてしまうと、もし万が一キャラクターが死んでしまった時に、また再びシナリオをから始めなければならないのです。

『PC-88SR版、X1版をお持ちの方へ』

- 2枚あるシナリオディスクの「上巻」には、シナリオの巻、式、参のだけが入っているのですが、「ほうげんにしゅつぱつする」を選ぶと、カーソルはシナリオの四、五の位置まで動かせるようになっていきます。しかし、シナリオの四、五はこのディスクに入っていないので、ここで四、五を選んでも、ベンタウアの町(メニュー画面)に戻されてしまいますので、注意してください。同様に、「下巻」のシナリオディスクでは、シナリオの巻、式、参は、選ばないようにしてください。

『PC-88SR版をお持ちの方へ』

- PC88SR版の追加シナリオは、サウンドBIOSを拡張しております。『ソーサリアン』を始める前に、必ず下記の作業を行なってください。

《サウンドBIOSの拡張方法》

1. メニュー画面で「ユーティリティ」にカーソルを移動し、「リターンキー」を押してください。
2. 「ユーティリティディスクをドライブ(1または2)にいれてください」とメッセージが表示されます。
3. 今回の追加シナリオディスクを、ユーティリティディスクの代わりに、指定のドライブに入れてリターンキーを押してください。
4. 「サウンドBIOSを拡張しました」と表示されます。

《注意》

- ※ 4のメッセージが表示されないときは、一度電源を切ってから、もう一度最初から試してください。
- ※ サウンドBIOSの拡張は、毎回『ソーサリアン』を始める時に実行してください。
- ※ サウンドBIOSを拡張しないで追加シナリオを始めると、ユーザーディスクが使えなくなったり、正常にゲームが動かなくなったりしますので、十分にご注意ください。

戦国ソーサリアン

プロローグ

～大魔法使いエティスの予感～

ソーサリアンが何度めかの冒険の旅に出ている頃、ペンタウアの城に、ひとりの年老いた魔法使いが駆け込んできた。目を血走らせ、髪を振り乱した必死の形相と、その年齢からは想像もできないくらいの速さで駆け続けている姿は、誰の目にも奇異に写った。

しかし、その異様な老魔法使いが、そのまま城のなかに入ろうとするのを阻む者はなかった。いや、むしろ誰もが、尊敬の念をもって彼を迎え入れようとしていた、とっていいだろう。そう、彼こそが、ペンタウアの平和を司どる偉大な魔法使いエティス、その人だったのだ！

エティスがよろけるような足取りで謁見の間に入ると、その姿に驚いた王は彼にたずねた。

「エティスよ、いったいどうしたというのだ!? いつも冷静なおまえが、それほどまでに取り乱すとは……」

エティスは、自身の意志とは裏腹に、なかなかおさまろうとしない動悸の激しさにイライラしながらも、王の質問に答えた。

「王よ、事件なのです！ それも、私の理性を狂わせる、いや破壊するほどの大事件が起ころうとしているのです！」

彼のいう“大事件”とは、次のようなことだ。

ペンタウアよりはるか東方に位置する、日本という小さな島国。そこは今まさに戦国の世を迎え、いたるところで戦火が交えられ、罪もない民衆の血が流されているという。エティスは、この殺伐とした小さな国、日本から、邪悪で強大な“魔”の波動を感じとったというのだ。その“魔”は人の心を自在に操って戦いを増幅させ、それによって死んだ人間の魂を食らって生きているという。

「王よ、“魔”は日ごとにその力を増大させております。いまのうちにヤツの息の根をとめないと、“魔”は日本はおろか全世界までも覆いつくし、すべての生き物を滅ぼしてしまうことでしょう」

翌朝、謁見の間には、思い思いの装備に身を包んだソーサリアンの姿があった。王は、たかぶる心を抑えつつ、ことの重大さを論すようにゆっくりと、ソーサリアンにエティスの話を聞かせ、そして命じた。

「ソーサリアンよ、“魔”の討伐のため、日本へ向うのだ。もはや一刻の猶予もならん。人類が減びるか否かは、そなたたちの腕にかかっているぞ！」

(スタッフからのお願い)

戦国ソーサリアンに登場する人物、団体名はフィクションであり、時代考証も、シナリオを盛り上げる(あるいはグラフィックの)都合上変えてあります。真面目に歴史の勉強をしている方は、くれぐれも参考にしないようにお願いします。

武田信玄の章

甲斐の武将、武田信玄は、治水、鉾山開発、優れた政治力によって甲斐をはじめ、遠江、駿河までを手の内に収め、さらに越後の上杉謙信と対立を続けながらも、信濃の一都まで領有するにいたったのである。

そして、元龜3年(西暦1572年)、信玄は最大の敵である謙信を、南関東の北条氏に牽制させつつ、自身は大軍を率いて京の都へと進軍を始めた。が、その折、信玄の上洛を阻止すべく動き始めた、織田信長、徳川家康の連合軍と合戦となってしまった!

しかし、時の勢いは信玄にあった。三河の三方ヶ原において対峙した徳川家康の軍勢を、ことごとく打ち破った信玄は、以後徳川方の諸城を次々に攻め落とし、翌、天正元年には、三河野田城を包囲していたのだ。

ペンタウァの偉大な魔法使いエティスは、この快進撃を続ける武田信玄の背後に、魔の気配を感じるという……。

登場人物



敵モンスター



武田信玄(1521-1573)

甲斐の大名家、武田信虎の子として生まれ、のちに信濃、駿河全域と上野、飛騨、美濃、遠江、三河の一部など領有するに至った。1572年に入ると、上洛のために西上、途中、徳川家康、織田信長の連合軍と衝突するが、三方ヶ原にてこれを撃破、徳川方の諸城を次々と攻め落とし、翌年に病死。



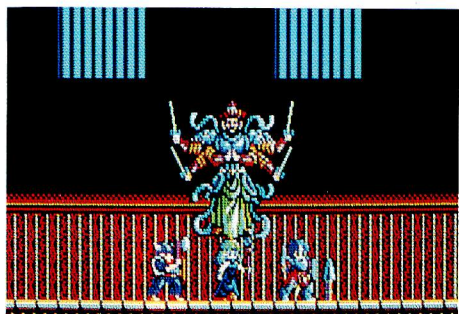
滝川

織田信長の家臣として、徳川家康軍とともに参戦した三方ヶ原での、武田信玄の軍勢との戦いで敗退、自身も負傷してしまっ



雲海

山野に起居しながら、日本中を旅し、修行を続ける山伏だが、その正体は、ようとして知れない。



アシュラ

3つの顔と6本の腕を持つ悪神。アシュラが出てくる部屋では、床と左右の壁から槍が飛んでくる。この槍には猛毒が塗ってあり、ひとつでも当たると致命傷になりかねないので、先にその仕掛けを壊すことが必要だ。アシュラ自体は、25回叩けば、やっつけられる。



織田信長の章

尾張の織田信長は、永祿3年(西暦1560年)、尾張は桶狭間において、西上中の今川義元軍二万五千を、わずか三千で急襲し、滅亡に追いやった。この、駿河、遠江、三河を治める南北朝以来の名家、今川義元を敗ったことによって、信長の武名は、いやがうえに高まっていった。

さらに信長は、年々その勢力を上げていき、天正元年(西暦1573年)には将軍、足利義昭を都から追放、室町幕府を滅亡させた。その後、信長の勢いはさらに激しさを増し、天正10年(西暦1582年)、宿敵武田氏(勝頼)を天目山の戦いにおいて滅ぼしたときには、本州のほぼ半分を征服していたのだった。

エティスは、鬼神と見間違えんばかりの、凄じい戦いぶりを見せる信長に、ただならぬ魔の気配を感じていた……。

登場人物



敵モンスター



織田信長(1534—1582)

1560年に、桶狭間の戦いで今川義元を倒した信長は、以来戦いに明け暮れ、ついには宿敵武田氏をも滅ぼした。そして晩年には、西は信濃、備中から北は能登、越中までと、本州の中央部のほとんどを征服した。だが、1582年、中国地方の雄、毛利輝元との決戦を前にして、家臣である明智光秀の謀反により、京都本能寺で倒れた。



明智光秀

織田信長に家臣として召しかかえられて以来、重く用いられているが、癪癪持ちの信長に煮え湯を飲まされたことも少なくない……。



法念

信長が、京都での宿舎としていた本能寺の住職。



風神・雷神

- 風を司どる風神と雷を自由に操る雷神は、ふたりで一对となって攻撃を仕掛けてくる。ふたりは円を描くようにまわりながら、交互に、そして素速く向かってくるが、
- 惑わされてはいけない。冷静にその動きを見極め、まずは風神を倒そう。残る雷神は、10回叩けばやつつけることができる。このふたりとは、最低でも3回は戦わなければならないので、1回の対戦でコツをつかんでおこう。



豊臣秀吉の章

天正18年(西暦1590年)、織田信長の家臣であった豊臣秀吉が、その遺志を次いで天下を平定してからというもの、日本は一時的ではあるにせよ、平和な日々が続いていた。

だが、その平和の裏には、検地、刀狩りにみられるような農民の弾圧や、キリスト教を信仰する人々の弾圧があった。しかも、それは日ごとに激しさを増し、処刑された宣教師や信者の数は、はかりしれないものとなっていった。

さらにまた、秀吉は天下の統一のみならず、明の國をも征服しようとした。そして、文禄元年(西暦1592年)と慶長2年(西暦1597年)の2度におたつてまで、朝鮮に出兵させたのだ。

これを見たエティスは、「秀吉に魔がとりついておる！」と確信、急ぎソーサリアンを日本へ送り込んだのである。

登場人物



敵モンスター



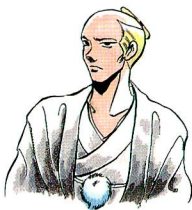
豊臣秀吉(1537-1598)

尾張の農民の子として生まれた秀吉は、信長に仕えるようになる。めきめき才覚を発揮、のちには中国遠征の総大将に任ぜられる。信長の死後はその遺志を継ぎ、日本統一に奔走。1585年に紀伊、四国を、1587年に九州を、そして1590年に小田原の北条氏を滅ぼした後、さらに奥州をも平定、ついに日本統一の偉業を成し遂げた。



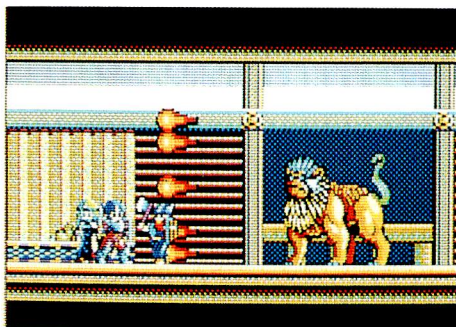
カルロス神父

はるばるポルトガルから、キリスト教の布教のために日本に来たが、秀吉のキリシタン禁止令のため、弾圧され、捕われてしまった。



出雲屋政吉

太閤秀吉のお膝元、大阪にある兵衛問屋、出雲屋の主人。



ぬえ

頭は猿のごとく、胴は狸に似て、尾は蛇、手足は虎という狂暴な妖怪。火の弾を2発吐いたあと、石化弾を1発吐き、飛び回ったのちに、一定時間静止するので、このときをのがさず、突っ込んで攻撃しよう。そして、火の弾を吐き始めたら逃げるのだ。これを繰り返し、100回叩けば、退治することができる。



真田幸村の章

元和元年(西暦1615年)、前年の大坂冬の陣の直後から、徳川家康の命によって、大坂城の堀は本丸を残し、すべて埋め立てられていた。こうなってしまうと、難攻不落の名城とうたわれた大坂城とて、裸同然である。家康の周到な準備に裏付けされたこの作戦によって、豊臣氏は、つづく大坂夏の陣において滅亡、同時に豊臣方についていた武将たちも数多く死んでいった。

後藤基次や木村重成らとともに、最後まで徳川方を悩ませた武将、策士として知られる真田幸村もそのうちのひとりであったが、偉大なる魔法使いエティスは彼が死んではいない、と説いた。幸村は、魔の力によって蘇ったというのだ。そして幸村は自分の故郷に戻り、忍者軍団を組織し、徳川家康の暗殺をもくろんでいるという……。

登場人物



敵モンスター



真田幸村(1567-1615)

武田信玄の将、真田昌幸の次男として生まれ、徳川家康に仕えた。だが、関ヶ原の戦いでは、父、昌幸とともに西軍の将として信州上田城に入り、徳川秀忠の軍を翻弄。戦後は高野山に流されたが、大坂冬の陣、夏の陣には豊臣秀頼の招きにより入城。徳川方を悩ませたが、ついに戦死した。



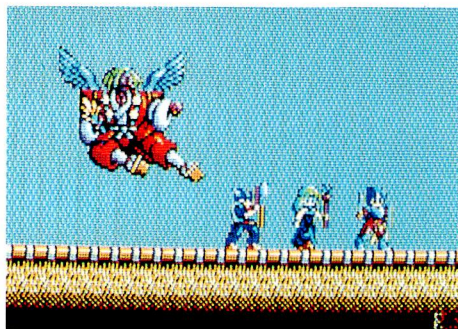
小助

もとは、徳川家に仕えていた忍の者であったが、幸村の手の者にそのかされ、真田忍軍の一員となってしまう。



あかね

家康が全国に放った「くのいち」のひとり。命によって幸村の屋敷に潜入したが、その後ブツリと連絡を断ってしまった……。



天狗

山伏の姿に似て、鼻が高く、翼を持っている。その神通力で空中を自由自在に飛び回るため、剣を当てることは難しい。かといって、もちろん魔法は効かないので、やはりタイミングを合わせて斬りつけるしかない。高空から舞い降りつつ、蹴りを放つ瞬間だけを狙って叩くのが、最良の攻撃方法だが、ヒットポイントは260もあるぞ。



徳川家康の章

豊臣秀吉の没後、日本最大の、東西を分けた慶長五年(西暦1600年)の関ヶ原の合戦に勝利し、さらに豊臣家の残党を元和元年(西暦1615年)の大坂夏の陣において一掃した家康は、大坂城の落城後、すぐに武家諸法度と公家諸法度を発令した。これによって事実上江戸幕府は確立し、平和の世が築かれようとしていた。

ソーサリアンが真田幸村の里から戻ってしばらくの後、徳川家康から江戸へくるよう、一通の書状が届けられた。さっそく旅じたくを始めるソーサリアンであったが、エティスは浮かない顔をしている。微弱ではあるが、江戸の城から魔の気配を感じるというのだ。「もしかするとワナかもしれないぞ!」。まさか、こんな平和の世に魔が現われるとは考えにくいだが、これは偉大なるエティスの言葉なのだ! ソーサリアンたちは、その忠告を胸に刻み込んで、家康の待つ江戸城へと向かっていった……。

登場人物



敵モンスター



徳川家康(1542—1616)

三河の小大名、松平広忠の長男として生まれ、幼年時代は駿河の今川氏の人質として過したが、桶狭間の戦いを機に独立。以後織田信長と同盟して三河、遠江、駿河を領有、さらに本能寺の変後は、関東に移って二百五十万石の大大名となる。豊臣秀吉の死後は、天下分け目の関ヶ原の戦いに勝利し、將軍となって江戸幕府を開いた。



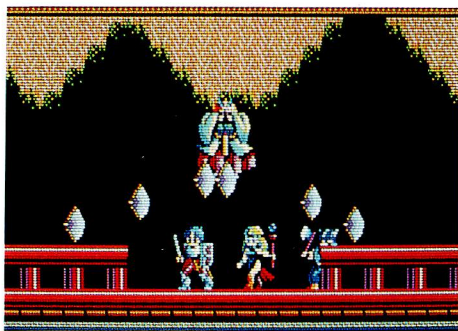
徳川秀忠

家康の次子。関ヶ原の戦いの折、進軍途中で信州上田城の真田父子に釘付けにされ、参戦できなかった。後に、二代將軍となる。



政四郎

秀忠に仕える忍者で、江戸城の警護役、お庭番という要職にある。



あんこくしん ジャキ 暗黒神 邪鬼

暗黒神邪鬼という名前からもわかるように、災厄の元凶の神である。現われたり、消えたりしながら、扇子を飛ばして攻撃してくるうえに、この扇子がふたつ以上出ているときは下にはおりてこず、強力な雷を発する。できるだけ早く扇子を叩き落とし、低い位置に現われたところを剣で叩く、という攻撃を心がけよう。20回叩けば、倒すことができるぞ。

